

補助具 1 視覚補助具の中の拡大読書器

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

福岡視力障害センター支援課 山田 信也

拡大読書器はもとより光学補助具・非光学補助具の活用は、当事者が視野をはじめとして視覚機能を自ずから意識することが大切です。効率や効果ある光学補助具や拡大読書器等使用では、当事者の体感としての視覚機能の理解がその質や量を決定づけると言っても過言ではありません。

実習では、光学補助具・非光学補助具を効率的かつ効果的に使用するためのベーシックな視覚機能の意識化のための訓練方法等については詳細に触れる時間はありませんでした。

さて、この「拡大読書器」の実習では、主に据置型拡大読書器の持つ優れた機能やその可能性と制約(限界)について言及しました。読字では、フォントやポイント数による工夫の仕方、ゴシック体が読みやすいとはかぎらないことも含めて、書字においては、画面を見ながら筆記するコツ、拡大読書器でできる作業の数々を体験しました。また、縮小鏡の利用方法や光学補助具を用いずに、視野の意識化による詐欺用方法にも言及しました。

また、拡大読書器の設置場所、使用時の姿勢、セッティング方法など、当事者の保有視野や視力によって使用するシーンを想定、効果的に使用するためには、何よりも屈折矯正が正しくなされていることの自由要請についてもお話ししました。

まだまだ、短い時間の中で体験することが沢山行うことができませんでしたが、この実習を通して、様々な簡単にかつ効果的な訓練方法について触れられたと自負しているところです。